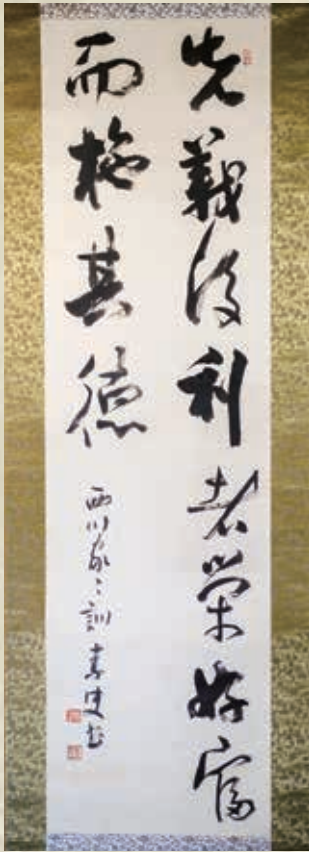


近江商人と家訓

江戸時代、日本各地に出店を構え活躍した近江商人。彼らは熱心な経営活動で豪商として発展する一方、家業の永続と繁栄を願い、それまでの経験や苦勞をもとにした家訓を作成し、子々孫々に伝えました。家訓には『三方よし』の精神に代表されるような、商いの心構えが記されます。



大文字屋西川家の家訓

八幡商人にも同様の家訓が残されており、その代表的なものに西川利右衛門家を本家とする大文字屋 西川家一統に伝わる「先義後利」があげられます。
「先義後利者 好富而施其徳」
「義を先にし、利を後にするは榮え、好く富みて其の徳を施せ」と読み、その内容は（先ず



旧西川家住宅

利益を求めるのではなく）人として、道義をわきまえた行いをしていけば、利益は後からついてきて、榮える。よく富み、その富に見合った徳すなわち善行を（社会に）施せというものです。「その徳を施せ」といういわゆる社会貢献をうたう部分に目がいきがちではありますが、例えば、日野の商人中井源左衛門の「金持一枚起請文」にある「始末と吝き（ケチのごと）」と同様、「好く富みて」部分も含め利益に対する支出や消費への理念も含まれていると考えられます。

その理念は明治期にも継承され、無償で橋や学校を建てたりと、世間のためにも地域の基盤整備や文化の発展にも大きく貢献しました。

なお、大文字屋一統では、奉公人が別家（のれん分け）するとき、当主より「お墨付き」と呼ばれる支度金と家訓が書かれた掛軸を与えられました。「お墨付き」については、その後当主預かりとなり、別家には利息が与えられますが、掛軸は床の間に掛けられ、その理念を継承していくのです。



旧西川家住宅 「井筒大」ののれん

広報おうみはちまんは、各自治会を通じてお届けします。また、各学区コミュニティセンターや図書館などの公共施設、郵便局、金融機関、セブン-イレブン・ファミリーマート各店舗などに置いているほか、市ホームページやマチイロ、マイ広報紙などでもご覧いただけます。

人口と世帯 令和2年2月1日現在
()は前月比

総数 82,070人(-2)
男 40,348人(+16)
女 41,722人(-18)
世帯 33,934世帯(+8)

※外国人住民(41カ国・地域/1,520人)を含みます。

Facebook



YouTube



Instagram



マチイロ



マイ広報紙

